

1 次期計画策定の趣旨

（１）生涯学習推進計画とは

生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指し、生涯学習の諸施策を推進するもの。

（２）次期計画の方針

現行の生涯学習推進計画が令和５年度で終了することから、令和６年度以降の次期計画については、現計画を継承しつつ、現在の社会情勢を踏まえた取組となるよう策定するもの。

（３）次期計画の位置づけ

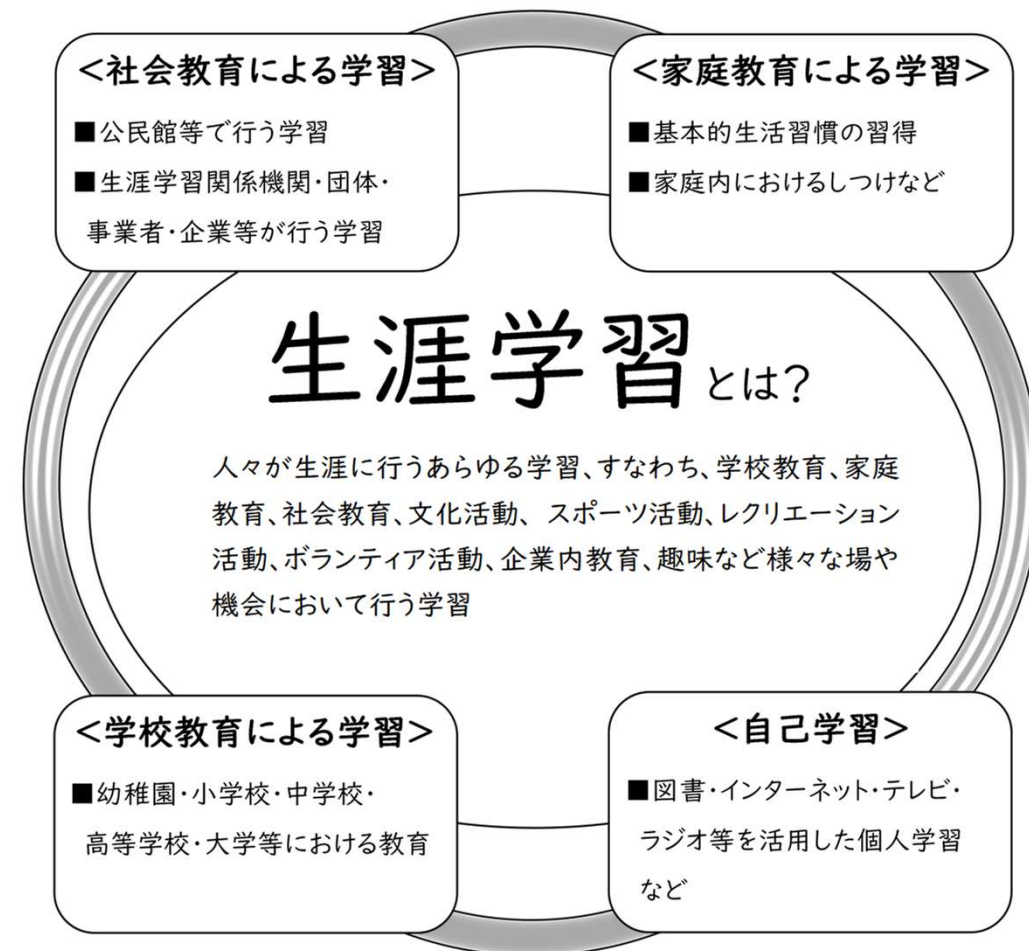
- ・次期計画の位置づけは、次期総合計画を「生涯学習」の面から実現させるためのものとする。
- ・現計画の基本施策を継承しつつ、国の「第３期教育振興基本計画」及び「次期教育振興基本計画」を参考に策定する。
- ・熊本市教育振興基本計画（熊本市教育大綱）作成と連携し、策定する。

（４）次期計画の期間

計画の期間は、次期総合計画と同じ期間（８年）とし、見直しも同時期とする。

期間：令和６年度～令和１３年度

生涯学習のイメージ

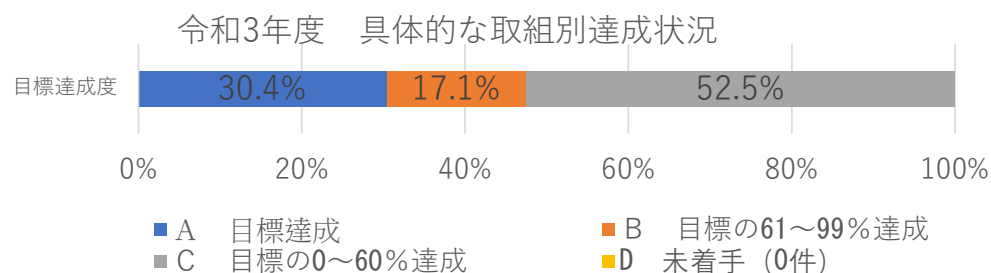


2 現計画における現状と課題

(1) 現計画の検証

- ・市民一人ひとりの心豊かな暮らしの実現を検証指標アで、学びと活動の循環による自主自立のまちづくりの実現の達成を検証指標イ、ウで確認することとした。(下左図)
- ・基本理念実現に向けての具体的な取組についても数値目標を設定し、目標達成を目指した。(下右図)

検証指標	基準値 (H27)	検証値 (R5)	実績 (R3)
ア 過去1年に生涯学習を行った市民の割合	28.6%	50.0%	87.5%
イ 学習を通じて新たな仲間づくりができた市民の割合	24.1%	増加	24.5%
ウ 学習を通じて地域の活動やボランティア活動に参加した市民の割合	12.2%	増加	7.6%



(2) 現計画の現状と課題

現状

- ①生涯学習を行った市民は増加しているが、市の具体的な取組は目標達成できていないものが70%近くある。
⇒具体的な取組の目標達成が少ないことから、民間主催や自主的な学習が多いものと推測される。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成できなかった具体的な取組が多数ある。
- ③生涯学習の結果として、仲間づくりや地域の貢献活動につながった市民の割合が低い。

課題

- ①民間主催の講座情報を確認し、市としては民間にない講座等を開催することで補完を行い、市民が多くの学習を選択できるようにする必要がある。
- ②新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、コロナ禍で培ったリモートでの開催など、DXの推進に取り組む必要がある。
- ③生涯学習の成果を活かせる社会づくりを進めていく必要がある。

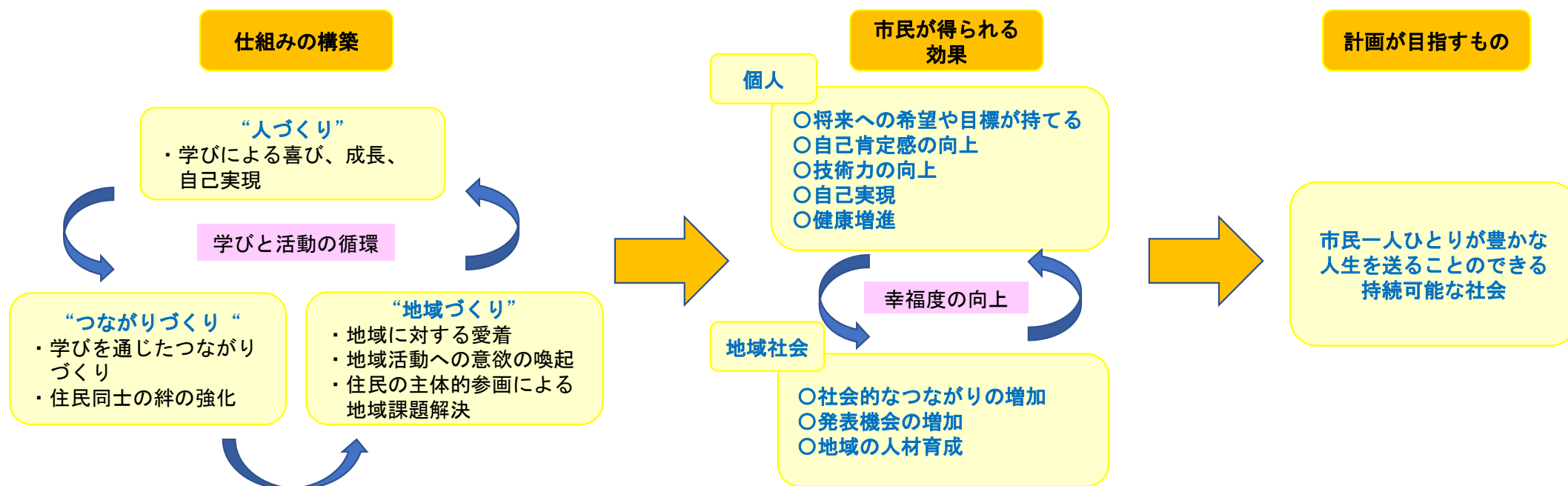
3 次期計画の基本理念

これまでも、生涯学習による「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」という「学びと活動の循環」の仕組みを構築し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会を目指してきたが、今後も重要性は変わらないものと考えており、社会構造の変化を踏まえて「学びと活動の循環」の仕組みを構築していく。

「学びと活動の循環」により市民個人の幸せが地域へ広がり、地域の豊かさにつながることで、本市の生涯学習による幸福度（ウェルビーイング）の向上が『上質な生活都市』となるように、市民それぞれに必要な学びの提供と、成果を適切に生かすことのできる社会の実現ができる施策を行う。これらを踏まえ、本計画では、次のとおり基本理念を掲げる。

基本理念

「学びと活動の循環」による、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会の実現



4 施策の展開

基本理念を実現するため2つの基本施策を定め、施策ごとの取組を展開する。

基本施策 1 市民が生涯学習の効果を実感できる学習機会の提供

学習環境の整備と学習内容の拡充により、効果的な生涯学習の機会を提供する。

(1) 環境の整備

	取組内容	具体例
①	生涯学習関係機関等との連携	大学や民間企業の情報を発信する体制づくり 等
②	生涯学習推進に関する情報の収集と提供	熊本市生涯学習情報システムの運用強化、情報発信の集約 等
③	図書館・博物館等における生涯学習の推進	図書管理システム更新に伴う利便性の向上、博物館施設のリニューアル 等
④	スポーツに対する環境の整備	地域型スポーツクラブの支援、スポーツリーダーの養成 等
⑤	デジタル化の推進	行政手続きのオンライン化、電子コンテンツの利便性向上 等

(2) 内容の拡充

	取組内容	具体例
①	ライフステージに応じた学習機会・内容の充実	幼年期、学童期、思春期、成年期、高齢期に合わせた講座の開催 等
②	家庭・地域の教育力の向上	家庭教育学級の充実、子育て支援団体の支援 等
③	現代的・社会的な課題や市民ニーズに対応する学習機会・内容の充実	S D G s ・多文化共生・健康増進等の講座を開催 等
④	文化芸術の取組の推進	熊本城復旧過程の公開・活用、文化・芸術活動の誘致 等
⑤	障がい者の生涯学習の推進	障がい者の社会参画の促進、障がいの有無にかかわらず参加できる講座の開催 等
⑥	情報リテラシーの向上	マイナンバーカード利用の呼びかけ、I C T の活用 等

基本施策 2 地域や社会への貢献に結びつけられる社会の実現

生涯を通じて学び続け、学んだことを生かして活躍できる「学びの成果を地域に還元する仕組み」を拡充する。

	取組内容	具体例
①	人材やボランティアの養成・活用	女性人材リストの活用、あいぽーとの活用 等
②	学習成果を生かす取組の推進	講師登録の活用、活動の場の提供 等
③	地域と学校との連携・協働の推進	学校支援ボランティアの活用、学びたいむの推進 等
④	災害に強い地域コミュニティづくりの推進	防災士の養成、災害の記録・記憶及び教訓の伝承、自主防災活動の推進 等

5 スケジュール

年度	令和 4 年度		令和 5 年度										
時期	2 ～ 3 月		4 ～ 6 月		7 ～ 9 月			10～12月			1 ～ 3 月		
検討内容	計画骨子		計画素案										
教育委員会会議	●			●					●			●	
	方針説明		策定委員の委嘱				素案報告				計画決定		
政策会議					●					●			
策定委員会					●	●	●	●					
議会					●						●		●
パブコメ												●	